

令和 8 年度第 1 回小牧市交通安全・防犯対策協議会 議事録

日 時	令和 8 年 7 月 16 日（木） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	【委員】 ◎中村 明 交通安全協会小牧支部 ○林 泰治 安全なまちづくり推進指導員 加藤 一樹 小牧安全運転管理協議会 平松 浩 小牧市交通委員連絡協議会 春井 ひとみ 小牧防犯協会連合会 長谷川 幸彦 小牧工場事業場防犯協会 鈴木 里美 小牧少年補導委員会 伊藤 守 小牧市保護区保護司会 兼子 茂 小牧市生徒指導連絡協議会 白石 昌之 小牧市区長会連合会 梶田 久美子 小牧市女性の会 落合 光江 小牧市更生保護女性会 澤木 厚司 小牧市社会福祉協議会 長谷川 宜史 小牧商工会議所 河合 厚志 小牧小中学校 P T A 連絡協議会 服部 勲 小牧市老人クラブ連合会 梅田 三枝子 公募委員 熊澤 正幸 公募委員 牧野 裕人 公募委員 ※ ◎会長、○副会長 【事務局】 小川 真治 市民生活部長 堀田 正二 市民生活部次長 高柳 貴大 市民安全課長 坂田 充 市民安全課主幹 日比野 豊 市民安全課交通防犯係係長 安達 賢一 市民安全課交通防犯係主任 上月 あかね 市民安全課交通防犯係主事 【小牧警察署】 大谷 修 生活安全課長
欠 席 者	山下 香 子どもと高齢者を交通事故から守る会
傍 聴 者	0 名
配布資料	・ 次第 ・ 資料：報告事項

主な内容

1 報告

(1) 行動経済学を活用した自転車盗被害防止対策について【事務局より説明】

行動経済学のナッジ理論とは、人の自発的な行動を望ましいものへそっと後押しするアプローチで、これを防犯対策に活用できるのではないかと考えた。

今年、小牧市内（1月～5月）で174件の自転車盗が発生している。そのうち、無施錠車が6割。被害多発エリアは小牧駅周辺やラピオなどの商業施設。被害者の多くは10代から20代。無施錠の自転車が盗難被害にあっていることが小牧市での自転車盗被害の特徴であるため、自転車にカギをかけてもらうためにナッジ理論を活用しようと考えた。この取り組みは名古屋市の警察署ですでに実施しており、カギをかけてもらうことができたという成果が得られていたため、同じような方法で小牧市でも実施した。

小牧駅と中央図書館の駐輪場を実施エリアとして選定した。まず、5/15から6/15まで優先駐輪場を設けず無施錠車数の調査をし、6/16から本日まで優先駐輪場を設けた後の無施錠車数の調査を行った。その結果、小牧駅での優先駐輪場エリア内の平均無施錠車数が減少（9.1台→6.2台）し、エリア外では増加（5.5台→12台）した。中央図書館ではエリア内の平均無施錠数は増加（2.5台→2.7台）し、エリア外では減少（5.8台→4.3台）した。この結果は、今後分析していく予定。利用者へのアンケート結果は、カギをかけようと思った、目に留まってよいなどがあった。

一定の効果が確認できたため、エリアの拡大、自転車盗以外にも騒音やごみのポイ捨てなどにも活用できたらと考えている。

(2) 小牧市における交通事故及び犯罪発生状況について

（坂田主幹）

・昨日 AM8:00 ごろ、小牧市村中地内で40代男性の運転する普通乗用車と小学校1年生女児の交通死亡事故が発生した。信号のない横断歩道を南から北に横断中に東から西に直進してきた乗用車と衝突。警察で緊急会議を開き、取り締まりを強化すること、市内ボランティア団体や関連企業と連携した啓発活動や免許更新のときにチラシを配布するなど事故防止の取り組みにさらに力を入れていくことを決めた。また、市、教育委員会と協力し、管内のパトロールや施設利用者への啓発にも力を入れ、事故の再発防止に取り組んでいく。

・愛知県内において昨日現在、交通事故で亡くなった方は70名であり、全国ワースト3位。これから行楽シーズンなので、自身の運転に注意し、啓発にも協力してほしい。

（大谷生活安全課長）

・今年の5月末の統計では、刑法犯認知件数は601件で前年同期比プラス59件であり、約10.9%増加している。このうち自転車の盗難については、全体の29%で、174

件発生した。商業施設の店舗、アパートやマンション、駅の駐輪場で多く発生していて、このうち無施錠で盗まれているのが 64.9%である。愛知県下の無施錠率は 64.2%なので、小牧市もほぼ同じくらいの無施錠率で盗まれているということが言える。

- ・主な犯罪件数の内訳は、侵入盗 31 件（前年比プラス 1 件）、自動車盗については 7 件（前年比マイナス 2 件）。特殊詐欺は 30 件で（前年比プラス 9 件、増加率は 42.9%）被害額 1 億 4600 万円（前年比プラス 9000 万円）。今年の 4 月の改定で SNS 型投資詐欺、ロマンス詐欺も手口として追加されたことで被害額が増加したと予想される。昨年最も小牧署管内で増加率が激しかった自動販売機狙いは 14 件で昨年比 2 件減少。昨年は減少した万引きは増加に転じ（前年比 10 件増加、増加率 17.9%）、66 件であった。

- ・特殊詐欺については、現在でも毎日のように前兆電話がかかってきており、このような犯罪情報や不審者情報をパトネットあいち・アイチポリスというメールや SNS で毎日のように情報発信している。警察では犯人と話さない対策を勧めている。

- ・6 月末時点で、少年検挙 44 人、前年比倍くらい増加。万引き、傷害、学校等への侵入など。複数人で仲間内で行うのが小牧の特徴。深夜徘徊や喫煙の補導が 12%減少。特に喫煙の補導が半減している。補導される少年の内訳は 46%高校生、30%が中学生。犯罪に至らない状態も野放ししていると凶悪犯罪に発展する可能性があるため、補導した少年についても指導し、保護者に連絡し監護の依頼をしている。最近はラピオ周辺でのバイクの乗り回しや公共物への落書きも多く発生している。

- ・今週から夏休みに入るため、犯罪が発生しないように様々な対策を取っていく。

(3) 令和 7 年度の交通防犯の取組事項について【事務局より説明】

①交通安全対策

- ・幼児から高齢者まで年代に応じた内容の交通安全教室を 28 回、街頭キャンペーン等を 21 回実施した。ストップマークを配布し、路面への設置をした。あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と協同して交通安全体験事業「SAFETOWN 小牧」を実施した。

②防犯対策

- ・防犯教室を 15 回、街頭キャンペーン等を 12 回実施した。民生委員の高齢者宅訪問時に特殊詐欺防止啓発資材の配布・注意呼びかけを依頼した。

③交通・防犯合同で実施した対策

- ・実証実験として体験型犯罪啓発用 VR ゴーグルの試験運用を行った。小中学生のポスターと標語の受賞作品を市役所と巡回バス「こまくる」のデジタルサイネージで掲示した。寿学園での啓発を実施した。商業施設でヘルメット購入費補助金や自転車盗難防止の呼びかけを実施した。

(4) 今年度の取組事項について【事務局より説明】

①巡回バスへの交通・防犯対策ポスターのラッピング等について

・ 次回の協議会にて優秀作品の決定

②乗車用自転車ヘルメット補助金について

・ 引き続き実施する。

③反射材の中高校生への配布について

・ 夕暮れ以降に外出する機会の多い市内の中学校、高等学校に在籍する中高校生に、秋ごろ反射材を配布する予定。次年度以降の配布については、アンケート等の結果から判断する。

④生命のメッセージ展について

・ 命の大切さを来庁者に訴え、安全運転の重要性を呼びかけた。自動車危険運転体験 VR 等の体験コーナーも設置した。

⑤ピーチバス車体への交通防犯対策広告の掲載について

・ 交通安全と防犯対策を目的として、ピーチバスの車体に 5 月からこまき山ポリスの広告の掲載を開始。

⑥小牧市特殊詐欺対策検討委員会について

・ 市・市民・事業者の責務や関係機関との連携協力のあり方を定める条例制定の是非について検討し、より効果的な施策や啓発手法などについて協議することを予定。

3 その他

実際の特種詐欺の前兆電話の視聴を行った。

以上